令和5年度　兵庫県立香住高等学校 学校評価及び学校関係者評価

2024年3月11日

1	教育方針	「真理を究め、責任を果し、敬愛を尽す」の校訓のもと、家庭・地域社会と連携して夢や志を育む教育を推進し、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立する人を育てる。
2	本年度の重点目標	(1)個々の生徒に応じた学習指導を行い、「確かな学力」を育成する。 ア 基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力を養う学習活動を行い、「確かな学力」を身に付けさせる。 イ 地域資源を活用した特色ある教育活動を展開し、主体的、対話的で深い学びを実現する。 (2)達成感と自己有用感を育む教育を推進し、「自主・自立の精神」を養う。 ア 体験的な教育活動を積極的に推進し、自ら学び行動する意欲と態度、主体的に進路を選択し決定できる能力を育成する。 イ 家庭や地域社会と連携した組織的・系統的なキャリア教育を充実させ、社会の担い手としての勤労観や社会に貢献する姿勢を育む。 (3)人間的なふれあいと規律を重視した生徒指導を進め、「豊かな心と健やかな体」を育てる。 ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る取り組みを通じて、公共の精神や協調性を涵養する。 イ 地域や関係機関と連携して安全・安心な学校づくりを推進し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりの心を育む。 ウ 感染症における予防対策を正しく理解させ、予防する能力や態度を育成する。 (4)教職員の資質向上を図り、「互いに支え合い切磋琢磨する職場」づくりに努める。 ア 授業研究や教職員研修を通してICTの効果的な活用を推進し、生徒の実態に応じた効果的な指導方法の工夫・改善を図る。 イ 校務・業務の効率化と情報化を推進するとともに、教職員相互の協力・協働体制を強化する。

～　海と地域に学び、貢献する香住高校　～

評価は4段階で、4=できた、3=まずまずできた、2=あまりできなかった、1=できなかった	
総合判定	A･･･4.0～3.5 B･･･3.4～3.0 C･･･2.9～2.5 D･･･2.3以下

分野	番号	実践目標	具体的取り組み（評価項目）　/　*今年度の成果*	評価	総合判定	学校関係者評価(意見)	次年度への取り組みと改善策
総務部	1	感染症対策予防の推進と安全・安心な学校環境整備	①新型コロナウイルス等の感染症予防に努め、適切に学校生活および行事を実施する。 ②清掃やゴミ分別の徹底により日頃より学習環境を整え、定期的な安全施設設備の点検を行い、生徒の安全に関する意識啓発に取り組む。 ③関係機関との連携により校内防災体制の充実を図り、防災意識を高める訓練を実施し各自が正しい判断ができる準備を図る。 *【取組成果】* */コロナ・インフルエンザの流向を見定め、可能な限りコロナ禍前に学校生活・教育活動を戻すように考えた。* */安全点検を定期的に実施し、全てが反映できてはいないが可能な限り改善するように依頼している。* */香美町防災課と連携し、今年度も予告無しの避難訓練を実施たが、高台避難は行えなかった。能登半島地震の教訓を踏まえ、防災体制を変更していく必要がある。*	3.1	B	●清掃やごみの分別ができるということは学習環境を整えるだけではなく、卒業後もマナーとして身につけていて欲しいことなので、引き続きその啓発に取り組んでいただきたい。 ●PTA活動の”花いっぱい運動“をもっと配布範囲を含めて、PTAと協力・連携して実施する。 ●香住高校の魅力発信として海の文化館などに設置されているのは大変良い事だと思います。ただ、広報をする上でのターゲティングをしっかりする必要がある。 ●ターゲティング先として、地域（行政関係・地域住民・企業）・入学希望者・入学希望者保護者への活動や情報発信先内容を変える必要がある。 ●オープン・ハイスクールについては4年ぶりに神戸港で実施できたことは香住高校の広報にとって非常に重要なことであるので、今後も継続していってもらいたい。	・今後も継続して感染症の状況を把握し、適切に学校行事等の運営等に努める。 ・能登半島地震の状況を踏まえ、本校における防災体制の変更を行う。特に、津波避難に関しては現在の避難場所が適切なのかの検証する必要性を感じる。（長時間の待機や冬場等の積雪や雪崩の想定等） ・学校安全点検や掃除用具等の管理を行い、より安全な環境づくりに努める。 ・ホームページや広報活動をより充実した情報発信を行う。 ・オープン・ハイスクールの充実を図り、中学生に本校の魅力を伝える。
	2	地域貢献活動の推進と香住高校の魅力発信	①地域諸施設と連携した文化活動や環境学習、ふるさとづくりに貢献する。 ②行事計画に基づき広報活動を積極的に行い、ホームページを随時更新する。平均週1回以上を目指す。 ③学校案内パンフレット刷新するなど、学校の魅力を校外へ発信する。 ④オープンハイスクールの内容の充実を図り、入学希望者の増加に努める。 *【取組成果】* */対外的な行事としては学年・科が中心となってしまっている。連携・協力の必要性を感じる。* */各新聞社への広報活動を定期的に実施し、HPの更新も可能な限り行っている。連携中学校には学校歳時記を掲示してもらっている。* */学校パンフレットを今年度も更新し、学校歳時記の発行を行っている。* */神戸でのOHS、学校発表会を兼ねたOHS等よりPR活動を行っている。参加者より好評を得ているが入学者数への結びつけや参加者数の増加への課題がある。*	3.2	B		
保健部	3	生徒の健康増進	①状況をふまえ、授業確保をしつつ、短時間で円滑な健康診断等を行い、生徒の健康増進と保健衛生の充実を図る。 ②感染症や事故防止の啓発を積極的に行い、状況に応じた生徒連絡、職員連絡を実施する。 *【取組成果】* */健康診断の計画及び円滑な実施を行い、関係機関と連携した。* */校内保健委員と感染症対策を考え、熱中症予防講習会の実施した。*	3.5	A	●新型コロナウイルスは一段落だが、自己判断（登校判断）による部分などは注意が必要と考える。 ●アフターコロナによる外的要因や環境変化による生徒の心境変化など、精神的な部分でケアができるサポート体制も含んでいただきたい。社会的にうつ等が増加している。 ●近年は大学においても、精神的に辛い状態になりやすい学生が増加傾向にあるため、そうした生徒に対するケアについては今後も続けていくことが重要である。	・これからも、生徒の健康問題を教職員、生徒と共に対応・改善できるよう努める。 ・特別支援については、ここ数年で教職員も様変わりし、足並みもそろいにくくなってきている。ので、基本的な研修をいれていきたい。
	4	生徒の内面的なサポート体制の充実	①キャンパスカウンセラーによる定期的なカウンセリングを行い、生徒の内面理解を深める努力と情報の共有を図る。 ②通級指導も含め支援を要する生徒のための関係機関と連携し、校内サポート会議の開催により生徒情報と指導方法の共通理解を図る。 ③多様な生徒を理解し、適切な指導をするためのスキルアップに努める。 【取組成果】 /校内・寮内での教育相談の確立を進めた。 /関係機関やサポート会議との情報交換を行い、支援体制の充実を図った。 /職員研修・サポート会議の実施を進めた。	3.3	B		
教務部	5	**授業の改善**	①学科、教科、学年と連携した時間割を作成し、スムーズな運営に努める。 ②公開授業を実施、授業者、参観者の授業質の向上、改善を図る。 ③成績不良者の指導を毎学期ごとに実施する。 ④授業アンケートを実施し、その結果を協議しより良い教科指導につなげる。 *【取組成果】* */時間割の作成・授業の運営に関しては、出張、年休など調整しながら時間割を作成することができた。行事や実施時間数などを加味しながらの作成は難しく今後更なる運営の工夫が必要である。* */複数の公開授業を実施した、本年度はBYODの活用や、協同的な学びを意識した授業運営等、参考になるものを多く実施していただくことができた。* */成績不良者指導は各学期毎に実施した。2学期の不良者指導では、具体的な3学期の目標を提示し単位取得に対する意識付けを行うことができた。* */授業アンケートに関しては生徒のアンケートをとりまとめ、各職員へ講座毎の個票と教科別での結果を配布した、また教員自らが振り返る授業アンケートも実施を行った。*	3.3	B	●「総合的な探究の時間」での活動に対し、他の事例や他校の取組などをもっと情報収集が必要である。進捗していくと個別や担当教諭での動きになり、スケールダウンしているように感じる。 ●地域内団体・地域企業との連携をさらに強化する必要がある。授業に有識者や外部講師として招くなどを積極的にすればよいと思う。地元就職率にも関わると考える。 ●先生間での引継ぎを、統一書式を作成し教職員が変わってもスムーズにできる。 ●地域課題が何なのか学ぶ機会を設ける必要性がある。 ●ICTの活用については、小学校と中学校でもかなり進んでおり、近い将来的にはそうした生徒が入学してくる。先進的な授業を行っている小学校や中学校の教師を招いた研究会などを行なうことも重要であるかもしれない。	・時間割の作成に関しては、R6年はすべてが新教育課程となり、年休、出張、要望を加味した作成がさらに難しくなると予想される、入れ替えできる部分とできない部分の周知を図り、授業担当に無理のない時間割が作成できるように各学年、部と連携していきたい。 ・授業アンケートなどは来年度からは端末での実施をおこなう。 ・教育課程の編成では生徒に必要な学力や能力、設備や教職員・地域の人材などをふまえ、現行のものを評価しながらカリキュラム・マネジメントを行っていきたい。 ・総合的な探求では今年度で形作られたものをさらにより良い方向に移行できるよう、部署や学年などで意見交換や情報共有する機会を積極的に設けていきたい。
	6	**教育課程の編成と実施**	①システム、評価等を含めた新たな教育課程への移行をスムーズに行う。 ②考査、アンケートを通じた生徒の学習進度の把握と改善を図る。 ③令和6年度実施・入学生の教育課程作成を行う。 【取組成果】 /令和4年度からの新たな教育課程の移行はシステムや申請など円滑に行うことができた。 /令和6年度の実施教育課程の作成は行うことができたが今後まだ、改変が必要かと思われる部分もみられる。	3.3	B		
	7	**「総合的な探究の時間」の充実を図る。 年次を通して系統的な学習計画の立案と発展的な教材作成を支援する。**	①香住高校における「総合的な探究の時間」の体系の確立を図る。 ②KHS company projectとし、1年次は探究活動に取り組むための基礎作り、2年次地域に学び地域に貢献する1年間、3年次は自分の実践を進路実現に生かす1年間と位置づけ、自ら課題を設定し、解決する力を養う。 ③各学年における活動の成果を発表・報告する機会を設ける。 *【取組成果】* */1・2・3学年におけるそれぞれの総合的探究の時間の大まかな指導計画を確立させることができた。* */KHS company projectとして学校の内外問わず、地域のイベントなど生徒が活動の幅を広げて学ぶことができた。* */学校発表会をはじめ多くの場面で活動の成果を発表する機会を設けることができた。*	3.1	B		
生徒指導部	8	○安全・安心な学校生活 ○今の香住高校に合った生徒指導	①交通安全、情報機器（SNSやスマートフォンの取り扱い）、禁止薬物等について、外部機関による講話を取り入れながら積極的な指導を行い、生徒が安全・安心な学校生活を送れるように努める。 ②いじめ問題や自殺問題に対し、年1回以上の職員研修を実施し教職員の能力向上に努める。また、いじめアンケートや面談週間を実施し、各学期に情報の共有を目的とした連絡会を行うことで、いじめの未然防止に努める。 ③各学年と連携しながら立ち番や定期的な服装頭髪検査を実施し、ルールやマナーを守る規範意識の向上に努める。また、全体で情報共有することで、教職員全員で生徒指導に当たれるよう努める。 ④制服の検討や服装移行期間の見直しなどを推進し、性的マイノリティー（LGBTQ）への配慮や但馬の気候に対応した服装の選択制を拡充する。 ⑤生徒主体で校則や規定の見直しを進める。 *【取組成果】* */生徒指導部によるSNSに関する講話や、美方警察署による非行防止教室を行った。ヘルメット着用努力義務に関しての啓発資料の配布や電動キックボードの登下校時の使用禁止等、生徒の安全確保に努めた。* */職員会議などで研修報告を兼ねた職員研修を実施し、事例を通し、教職員の能力向上に努めた。また、各学期にいじめアンケートや面談週間を実施し、情報交換会で生徒の共通理解を図った。アンケートについてはgoogleフォームを使用し、より生徒が意見を解答しやすい方法を導入した。* */毎月の服装頭髪検査や毎朝の立ち番指導を実施し、教職員全体で生徒指導に当たった。* */服装移行期間を廃止し気温や体調、TPOに配慮した服装指導を行った。また、性別を問わず制服の選択ができるよう制服の選択制の拡充を進めた。* */生徒会が主体となり、目安箱の設置やQRコードを用いたgoogleフォームでの意見の集約を行い、校則の見直しを進めた。*	3.0	B	●多様性の時代と言われる昨今。頭髪や服装に関して方向性を示しにくいと感じるが、何故その頭髪・服装にしなければならないのかを明確にしていく必要性がある。（おしゃれと身だしなみの違いを学ぶこと） ●服装や頭髪規定については、全国的に見ても価値観がそのものが大きく変わってきている側面もある。個性との線引きは難しいが、生徒募集にも関わる可能性があるので慎重な対応が必要であるように思う。 ●SNSの使用法について生徒が討論する形式で進めるのは非常によい取組であると感じた。	・交通安全や自殺・いじめの予防など、学校内の諸課題に対して、警察をはじめとした外部機関と協調して指導を行う。 ・生徒の規範意識を高めモラルやマナーを身に付けさせるため、教職員で共通認識をもって指導を行う。そのための配布物の作成や注意喚起を継続して行う。また制服の選択制や変更、ベストやポロシャツの導入、上履きの変更などについて、学校の現状や生徒の要望などを加味しながら、今の香住高校に合ったものになるように検討していく。 ・スマホやタブレットの管理・運用方法についてもさらに検討を進めていく。 ・各種行事に対して、生徒が主体的に取り組むために、教員側の担当や段取りを早めに決め、円滑に運営していくようにする。 ・部活動の運営では、積極的な参加を生徒に促すとともに、顧問会議を定期的に実施することで、指導方法や安全管理に対して教員が共通認識を持って指導にあたれるようにする。
	9	○生徒活動の活性化	①生徒が主体的に取り組む行事を促進し、学校祭など各種行事の運営を行う。 ②香住駅や香住海岸での清掃ボランティア、花いっぱい運動など地域貢献活動を通して地域に密着した生徒活動の活性化を図る。 ③部活動の支援を図ると共に、各学期に校内顧問会議やクラブ部長会を実施し、安全な部活動の運営や練習場所・部室棟の適正な管理を図る。 【取組成果】 /生徒が主体的に動き、生徒会が中心となり文化祭や体育祭、球技大会などの行事内容を計画・運営・実施した。 /生徒会が中心となり、地域の幼稚園・小学校に出向き中学生とともに朝の連携あいさつ運動をおこなった。また、花いっぱい運動ではPTAの方々と共に花を植えたプランターを用意し、地域の幼稚園や小学校に配布した。 /連盟登録費・参加費・運営費などを適切に管理し、部活動の支援を行った。また、各学期に顧問会議を実施し部活動の運営や部室等の管理を図った。	3.1	B		
進路指導部	#	進路情報・資料を有効活用し、指導の充実を図る。	①求人票一覧のデータ更新、閲覧方法の整備・管理ならびにHandy進路指導室の活用 ②指定校推薦一覧のデータ更新、閲覧方法の整備・管理 ③受験報告書のデータ化。簡単な形で一覧表にする。 ④生徒用タブレット端末の有効活用考える（求人票・指定校・受験報告書等の閲覧） ⑤ネット出願が増えているため、進路室で出願できるよう環境を整える。 *【取組成果】* */Handy進路指導室を活用することで、制限なく求人票を閲覧できるようになった。* */指定校推薦の一覧をパソコンで閲覧可能にしたが、管理方法には課題が残る形となった。* */受験報告書をパソコンで閲覧可能にした。* */生徒の個人端末から求人票を閲覧可能にした。* */多数の生徒が進路室のタブレットを用いて出願を行い、有効に活用できた。*	3.2	B	●就職希望者の模擬面接は、生徒自身に課題を明確にさせ、もっと早期から面談練習を実施する。 ●地域団体・企業と連携を強化することにより、進学だけでなく就職先窓口の拡大が確実に広がる。生徒の選択肢拡大が何より必要である。 ●社会人マナーや仕事とは何かを学ぶ機会を設けてはどうか。（生徒指導と関わる部分になるが、卒業後自立し規範と個性の両立に悩む子が多いと聞く） ●卒業後の離職率や進学後の進路を含めた情報収集をしてみてはどうか。 ●地元で多くの生徒が就職したことは非常に重要である。ハローワークとの連携強化も含め、但馬地域への就職者が増えるよう取り組みを継続してもらいたい。 ●履歴書や志望理由書などは、ChatGPTなどのAIツールを使用することで指導しやすい面もあるので、そうした技術の活用についても検討してもらいたい。	・新課程になり、学校側の受験に向けての対応力が問われるため、進学（とりわけ共通テストや個別学力検査）への情報取集を行う。　・今年度進路指導の手引きを作成したり、校内における手続き関係の簡略化を図ったことで、スムーズな指導を実施することができた。来年度も改善し、より効果的に指導できる取り組みを実現できるようにする。 ・民間企業の就職支援システムを活用した就職指導を行ったが、大きな問題も起こらなかった。このシステムも来年度継続して活用する予定である。
	#	進路指導方法の研究	①各学年から年間進路指導計画を年度当初に、実施報告書を年度末に出してもらい、改善点をまとめ、充実させていく。 ②学年と連携を密に取りながら、早期に進路関係の指導を実施する。 ③進路の手引きを作成し、生徒に配布し、スムーズな進路選択を支援する。 *【取組成果】* */各学年で年間進路指導計画に基づき、進路ホームルームや進路ガイダンスを実施していただいた。* */進路面談や進路希望調査を実施し、早期から生徒の進路状況について理解を深め、進路指導上の改善点を模索した。* */就職・進学それぞれの手引きを1冊にまとめ、生徒に配布した。複雑な受験の手続きを簡素化することができた。*	3.0	B		

令和5年度　兵庫県立香住高等学校 学校評価及び学校関係者評価

2024年3月11日

1	教育方針	「真理を究め、責任を果し、敬愛を尽す」の校訓のもと、家庭・地域社会と連携して夢や志を育む教育を推進し、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立する人を育てる。
2	本年度の重点目標	(1)個々の生徒に応じた学習指導を行い、「確かな学力」を育成する。 ア 基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力を養う学習活動を行い、「確かな学力」を身に付けさせる。 イ 地域資源を活用した特色ある教育活動を展開し、主体的、対話的で深い学びを実現する。 (2)達成感と自己有用感を育む教育を推進し、「自主・自立の精神」を養う。 ア 体験的な教育活動を積極的に推進し、自ら学び行動する意欲と態度、主体的に進路を選択し決定できる能力を育成する。 イ 家庭や地域社会と連携した組織的・系統的なキャリア教育を充実させ、社会の担い手としての勤労観や社会に貢献する姿勢を育む。 (3)人間的なふれあいと規律を重視した生徒指導を進め、「豊かな心と健やかな体」を育てる。 ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る取り組みを通じて、公共の精神や協調性を涵養する。 イ 地域や関係機関と連携して安全・安心な学校づくりを推進し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりの心を育む。 ウ 感染症における予防対策を正しく理解させ、予防する能力や態度を育成する。 (4)教職員の資質向上を図り、「互いに支え合い切磋琢磨する職場」づくりに努める。 ア 授業研究や教職員研修を通してICTの効果的な活用を推進し、生徒の実態に応じた効果的な指導方法の工夫・改善を図る。 イ 校務・業務の効率化と情報化を推進するとともに、教職員相互の協力・協働体制を強化する。

～　海と地域に学び、貢献する香住高校　～

評価は4段階で、4=できた、3=まずまずできた、2=あまりできなかった、1=できなかった	
総合判定	A･･･4.0～3.5 B･･･3.4～3.0 C･･･2.9～2.5 D･･･2.3以下

分野	番号	実践目標	具体的取り組み（評価項目）　/　*今年度の成果*	評価	総合判定	学校関係者評価(意見)	次年度への取り組みと改善策
海洋科学科	#	魅力のある授業、実習の実施	①新学習指導要領に即した授業、実習への改善を行う。 ②ICTの活用等を通して生徒が主体的に学ぶ力を育成する。 ③生徒の進路実現に即した授業、実習を実施する。 *【取組成果】* */一昨年前に導入したデジタル化の機器（シミュレータ、しりうす等）の授業での活用が定着してきた。* */Google等を活用した課題の配布、提出、プレゼンテーション資料の作成等生徒が主体的にICTを活用する場面が増えた。* */進路実現に向けて授業や実習に加えて、補習等の授業外での時間も活用しながら資格取得に向けた補習や講習を開講した。（危険物補習、小型船舶講習等）*	3.1	B	●「矢田川漁協」とタイアップした実習など、大変特色のある取組であり、是非、継続・発展した指導を期待する。 ●県内随一の水産科を要する高校の専門的な授業は素晴らしい。もっと実習させても良いと思う。 ●特色ある授業をされている事は誇らしいので継続していって欲しい。 ●対外的な行事があまり浸透していない。地元の生徒が少ない中で地域（地元産業）との交流機会をもっと増やすべきと考える。 ●対外行事と同様に、普通科との交流機会をもっと持たなくてはならないと思う。 ●普通科で水産科目が開講されたことは、海洋学科との接続を考える上で重要な取組であるので、今後も両科の接続に関する取組に力を入れてもらいたい。 ●海洋科学科はジオパークとの接続もしやすいと思うので、ジオパークを通して地域との関わりを増やす試みについても検討してもらいたい。	・対外的な行事についてはその教育的効果等を踏まえながら精査し、今後も重点をおいていくものと、縮小するもについて検討していきたい。 ・学年の海洋科学科の職員との連絡を密にし、学年との連携を図って行きたい。 ・普通科と海洋科学科それぞれにおける水産科目の開設目的や目標を明白にし、それにあった年間計画を設定していきたい。
	#	対外的な行事を通して、学習活動の活性化を図る。	①コロナ後の対外的な行事について検討し、生徒が日頃の学習の成果を発揮できる行事にはより重点をおいて取り組む ②海洋科学科の特色ある取組をPRし、生徒募集につなげる。 ③各種関連機関との連携を密にし、より現場に即した実践的な授業、実習を実施する。 *【取組成果】* */コロナ後で海洋科学科では充実した対外的な行事を実施することができた。今後は普通科での水産科目での対外的行事の導入についても検討していきたい。* */オープンハイスクールについては内容が長年固定化されているため、内容や時期の再検討を実施し、より生徒募集につながる内容で実施したい。* */外部関連機関の多大な協力もあり、学校では体験できないような様々な実習を実施できた。*	3.2	B		
3学年	#	進路実現に向けた学力の定着を図る。	①個々の進路目標に応じて、探究的な学びを進め、学力向上を図る。 ②週末課題、小テスト、模試、補習を計画し、学力の定着を図る。 ③進路指導部と連携し、個々の生徒に応じた指導をする。 *【取組成果】* */個々の進路目標に応じた指導ができたが、多様な進路希望に対応するためには課題が残る。* */課題、模試、補習など計画的に実施することができた。* */受験準備、面接指導など進路指導部とよく連携できた。*	3.1	B	●生徒の「とりあえず進路を決めなくてはならない」そんな考え方があるように感じた。もっと夢を持てる情報提供（理想と現実はあるが）目標値の設定が必要であると感じた。 ●進路の決定に迷う生徒への指導は苦労が多いと思われるが、外部の人の話を聞くことは非常に重要であると思われる。地域への関心や就職に向けては、Iターン移住者の話を聞き、地域の魅力を外から視点で知ったり、大学進学後の話を聞く上でも有効であるように思えるので検討してもらいたい。	・入試方式も多様化しているが、生徒の進路希望も多様化している。進路実現のためのは採用試験や入試の準備のために、進路指導部と連携するだけでなく、多方面との連携が必要と感じる。3年生を終えてみると、学習指導にしても、進路指導にしても、3年間を見通した指導計画が必要である。 ・学年レクレーションなどを活用して、普通科と海洋科学科で一緒に取り組む機会を増やしてきたが、同じ学年内の連携をとる機会を増やすことでよい効果が生まれることもある。レクリエーション的な行事だけでなく、学校発表会のような行事でも競い高め合えるとよいと思う。
	#	社会にでる前段階として、自分も他者も大切にし、集団や社会に貢献できる力をつける。	①地域社会と協力し、社会に貢献する態度を養う。 ②学校行事・HR活動を通して、コロナ後の新しい伝統づくりに取り組み、達成感・成就感を得る。 ③自己理解、他者理解を深め、自己の役割を果たす態度を身につける。 *【取組成果】* */「総合的な探究の時間」などを活用し、地域と連携できた。また、次の学年にも引き継ぐことができた。* */学校行事・HR活動などコロナ後とはいえ感染症対策に留意し、計画・実施できた。* */LHRでの特別講座やHR活動に取り組む中で、自己理解を深め、社会規範を理解し行動することができた。*	3.2	B		
2学年	#	生徒のコース・実状に合わせた学習指導を行い、学力の定着と主体的に学習する習慣を身につける。	①週末課題、小テスト（国・数・社・英）の実施 ②随時補習、定期考査前の補習、長期休業中の進学補習の実施 ③進路ガイダンス、進路HRの実施 ④BYODを活用し、授業中のタブレット利用の充実 *【取組成果】* */週末課題は考査前と期末考査後以外は実施し、小テスト（国・数・英）も併せて行った* */補習の計画は立てたが進学補習の出席率に課題が残った* */進路ガイダンスを2回実施し3月に1回実施予定である 進路フィールドワーク（普通科1回、海洋科学科2回）も行った* */授業外でもタブレットを活用したがまだ授業での実施が充実していない科目もある*	3.2	B	●就職や進学の進路に関わらず、目的意識を持たせることで自身の目標値を設定させ、何を取組めるのか、得意分野は何かを自己採点をさせる取組をしてはどうか。 ●行事に参加する意味や、他者を思いやる心を育む必要性を学ぶ機会をもっと設けてはどうか。 ●来年度から芸術文化観光専門職大学と香美町役場、SONYとが連携し、地域資源をVR化する試み「海のLocatone企画」をスタートさせる予定なので、可能であれば総合的な探求の授業との接続ができないか検討してもらいたい。	・来年度は３年生となり進路を実現する１年間となる。生徒の希望の進路だけではなく、その生徒に合った進路を実現する必要がある。そのためには、生徒・保護者・担任だけではなく、学年全体・進路指導部・学校全体など、組織的に対応していきたい。 ・自ら考えて実行できる人材を育てていきたい。そのためには、様々な行事で生徒主体となって考える機会を設けたい。失敗から学ぶことも多いので、成功するように促すことも必要だが、自分たちでやり遂げる達成感も実感させたい。
	#	様々な行事を実施し、達成感を得る。規範意識を身につけるとともに、他者を思いやる心を育む。	①修学旅行の実施 ②学校行事、HR活動などを通して達成感を得る ③日常の声掛けを意識し、規範意識を身につけさせる ④清掃活動を徹底し、環境を整える *【取組成果】* */無事に修学旅行を実施することができた* */さまざまな学校行事、HR活動や学年行事を通して達成感を得ることができた* */日頃から声掛けをすることはできたが規範意識はまだ身についていない生徒もいる* */日々の清掃活動を徹底することを心掛けたができていない箇所もあった*	3.1	B		
1学年	#	本校生徒としての自覚と誇りを養い、教育活動が生徒に円滑に浸透するための素養をつくる。	①基本的生活習慣を整えて、自律した行動がとれる生徒を育てる。 ②主体的な学習習慣の定着と基礎学力の涵養を図る。 ③教育活動を通して人間力を育成する。 *【取組成果】* */1・2学期は遅刻が多くあったが、3学期に入ってからは改善傾向である。* */朝の小テストや考査前の補習等を通して基礎学力の向上を図っているが、定期考査の欠点数が高い水準のままである。* */人間力を育成するために豊岡芸術専門職大学や鹿児島大学の出前授業を計画・実施することができた。*	3.0	B	●“基本的な生活習慣”の指導から“自立した行動がとれる生徒を育てる”ことは大変重要であるので、継続指導をお願いしたい。 ●香住高校生としての素養として、自覚や誇りを持つために、香住高校=自分と考えられるように、生徒が学校PRできる機会を設けてみてはどうか。 ●香住高校だからこそ夢を持てる環境充実の為に、地域内の団体や企業を中心にもっと活用してはどうか。 ●普通科のKHS Company Project は地元企業の魅力を知る上でも貴重な機会であると思うので、今後も改良を続けながら継続していってもらいたい。	・朝のSHRやLHR、立ち番の指導を通して、規範意識の向上を目指したい。 ・家庭との連携と協力体制を強化し、自立した生徒の育成に努めるように取り組みたい。 ・個人面談を実施し、進路実現に向けて具体的な目標を設定し、希望進路の実現に向けて対応していきたい。 ・各教科と連携し、必要な生徒には個別補習を行い、学習の遅れがないように対応したい。 ・規範意識向上のため、生徒指導部と連携を図り、マナーアップに努める。 ・自ら考える力を養うため、意見発表会を行う。
	#	様々な行事を実施し、達成感を得る。規範意識を身につけるとともに、他者を思いやる心を育む。	①入校訓練合宿の実施 ②学校行事、HR活動などを通して達成感を得る ③日常の声掛けを意識し、規範意識を身につけさせる *【取組成果】* */入校訓練合宿では、体調不良で1名が途中下山したものの、無事実施することができた。* */文化祭や体育祭を通してクラス内での協調性や団結力を高め、達成感を得ることができた。* */昼休みの立ち番や学期に1回の面談を行い、できるだけ多くの生徒に声かけを行い、問題の早期発見・解決につなげた。*	3.2	B		
事務部	#	生徒職員が安心安全に学校生活を送れるよう施設設備の整備を行う。 より充実した授業が実施できるよう教科備品等の配備を行う。	①生徒、職員の安全を第一とし、安心して学校生活を送ることができる環境づくりをめざす。施設設備の老朽化対応、より快適な学習環境の提供に努める。 ②令和5年度に実施する主な工事：普通教室床長尺シート貼替改修、特別教室6室への空調設備設置 ③教育課程の理解に努めるとともに分掌、教科、学年と連携を密にし、限られた予算を有効に活用しながら、教育活動が円滑に進むよう教科備品等の配備に努める。 *【取組成果】* */［老朽化対応］本館屋上防水補修工事（405、406教室上、9/20完成）、受水槽廻り配管修繕（8/29完成）、但州丸香住東港係留設備高圧受電設備改修工事（10/16完成）、屋外車庫屋根修繕工事（年度内完成予定）* *［快適な学習・執務環境］エアコン入替工事（事務室、8/4完成、特別教室2視聴覚室、9/20完成、保健室、9/20完成）、但州丸食堂エアコン入替工事（7/10完成）、但州丸生徒室漏油天井板等復旧工事（10/3完成）* *／各学年フロアのHR4教室及び選択1教室について、木製床板張りをビニール製長尺シートへ貼替え（8/24 完成） 特別教室棟2（調理、被服、美術、書道、音楽）、漁業水産実習棟（漁具製作室）へエアコンを整備（R6.1 完成予定）* *／教員から物品購入の要求を受けた際、予算執行に当たり、限られた予算の有効活用を念頭に内容の妥当性、数量の適性、予算残額等を勘案し、対応している。* *今年度は、特に「ひょうごの未来を担う高校生等の部活動等応援事業（備品等整備）」による予算措置を受け、カーボン製バレーボール支柱及びポールカバー2セット（10/27、11/7納品）、ソフトテニスコートブラシ4本（11/7納品）、カラーポスト15本（11/7納品）などの整備を行っている。また継続事業として「感染症流行下における学校教育活動体制整備事業」による物品整備も行っている。ハンドソープ、消毒作業用手袋、スプレーボトル等の消耗品に加え、サーキュレーター、CO2モニター、換気用扇風機、空気清浄機等の整備を行っている。*	3.2	B	●生徒は勿論、職員の皆様が快適な生活を送れるように、エアコンだけでなく設備の拡充は継続的に必要と考える。（衛生面では空気清浄機なども） ●清掃器具など、修練的にホウキを使用するのでなくモップなどを活用し、効率的かつ効果的にしていく事が重要と考える。 ●施設設備の老朽化対応が進み、学校全体の学習環境・執務環境が改善された点は非常に重要である。 ●社会的要請が多様化する中で教職員の業務増大や疲労蓄積の問題は全国的に問題視されているため、教職員の職場環境の改善や業務の負担軽減についても力を入れてもらいたい。	①次年度も、生徒、職員の安全を第一とし、安心して学校生活を送ることができる環境づくりに取り組む。 ・今年度緊急対応として本館屋上防水補修、エアコン更新（保健室、事務室、視聴覚室、但州丸食堂）、屋外車庫屋根修繕等を行ったが、学校予算で経費を捻出できないため、県教委へ緊急性、必要性を訴える予算要求書を提出し、予算措置を受け、実施した。 ・学校へ令達される予算には限りがあるが、今年度同様、緊急性、必要性の高い案件については、積極的に県教委へ要望していく。 ②職員による安全点検を年２回行ってもらい、結果を事務室へ報告いただいている。報告内容につては、これから年度末に向けて予算残、優先度等を勘案し、対応を検討する。 ③ 次年度、本館選択教室10室のエアコン(GHP)整備が計画されている。※ 業者の現場作業時、監督を十分行う。 ・部活動等応援事業・・・次年度も継続される予定であり、授業、部活動等の備品整備充実を図りたい。 ・老朽備品の買換えを行う。

【全体を通して学校評議員の意見】
●生徒が自分の望む進路をなるべく早く決定し、その目的達成のために専心努力勉強させる事、同時に高校生として授業に集中し必要なら学問修得と進路決定の時期・場所であることが香住高校の存在意義である。